

2025年11月18日 丘書記作成
2025年11月19日 総務部確認
2025年11月23日 (案)のまま
構成組織代表者等へ共有
2025年12月5日追加の修正を実施し
2025年12月10日 三役確認
2025年12月13日 第9回役員会確認

令和7年度「第3回理事会」議事録

日 時 令和7年11月15日（土）13:30～15:45

場 所 柏市暫定近隣センター1階会議室

出席者団体名：

塙崎区※・五条谷区※・箕輪区※・大島田区(区長代理出席)・大津ヶ丘第五住宅管理組合・塙崎二丁目自治会・リバティーヒル柏自治会：7名

役員（上記※理事重複者を除く）副会長②、会計①、書記①、総務部③、環境部①、広報部①、防犯防災部③、地区社協部②、欠席者委任状②：16名

定数41中過半数以上の23名出席（定数を満たし理事会成立）

特別参加：塙崎2丁目自治会②、大井区③(井堀内町会①、柏東パークホームズ管理組合①、緑台町会①)：5名

（以上、個々の出欠氏名は当会で別途把握）

柏市 猪野様 市民生活部市民活動支援課 統括リーダー

稻村様 沼南近隣センター 所長

江幡様 市民活動支援課 協働支援員

片上様 防災安全課 主査

田中様 防災安全課 主事

書記 丘書記

司会進行 鈴木副会長

1. はじめに

- (1) 出席者の読み上げ及び配布資料確認
- (2) 会長挨拶

貴重な時間の中ご参集いただき有難うございます。ふる協の理事会はそれぞれの自治会・町内会等の成り立ちが複雑でそれぞれ異なっており、抱える課題も違います。忌憚なく問題点を出していただき、意見交換をして持ち帰っていただきたいと

存じます。

今回は理事以外の大井区10団体代表者にも出席を依頼、それを含めて計31団体の長に通知を出しましたが、半数以下の出席で残念なことです。理事会は役員会から的一方的な内容ではなく、地域の問題点を解決していくためのものです。堅苦しい理事会という名前が災いしているかもしれませんので、今後、理事会の在り方については考えたいと思います。

大津ヶ丘第一小が、博報堂財団主催の児童教育現場の活性化や支援として設立した博報賞を全国トップ12団体の一つとして大変栄誉のある表彰を受賞しました。同行の先生らが、子どもたちに考えさせ、地域のことをもっと知ろうと努力し3年間頑張りました。その成果はひまわりプラザまつりでも発表されました。今年のひまわりプラザまつりでも同行から活動報告があることでは大いに期待しています。一方、大津ヶ丘第二小の登下校の見守りで、今年の12月からシルバー人材を登用することをPTAが決定しました。保護者だけではなかなか手が回らずの決断でした。こういった実情を理解し、地元住民団体での支援もお願いします。

<ご来賓各組織代表者の挨拶>

□市民活動支援課 猪野統括リーダー

日頃の活動ご協力有難うございます。今年度も半年以上が経過し、それぞれに抱える問題が見えてきています。各地域団体代表者がご出席される機会に、不明な点や問題点等があればご発言をお願いします。

□沼南近隣センター 稲村所長

今年もあと一ヶ月足らずとなりました。近隣センターの一近況として、今年3月に旧近隣センター建物が閉館し、その半年後の9月に暫定沼南近隣センターを開設しました。図書館も仮設ながら開館し、利用団体も新しい施設に慣れ親しんでいただいています。11月下旬から12月初めにかけてのひまわりプラザまつり開催の見通しが立ちましたが、2週間後に迫っておりました。そのご案内パンフレットを500部用意しましたので、適宜お持ち帰りいただき、まつりの住民周知にご協力をお願いします。

□柏市防災安全課 片上主査

風早北部地域は防災意識が高いと感じており、これまでに様々な意見をいただいております。在課し1年半が経過しましたが、様々な課題が見えてきたところです。その中でも現在の柏市地域防災計画の見直しの必要性があることから、9月議会で補正予算の承認を頂いたところです。この度の見直しでは、市職員と市民皆様の平時から災害時までの行動計画も併せて定めます。国でも市民が具体的に災害時に動ける計画の作成を求めており、市職員を含め、地域団体、住民とともにワンチームでやっていくことになります。防災計画の改定等は令和8年度にかけて、約1年半かけて実施します。

続いて総合防災訓練についてですが、11月11日に実施しました。帰宅困難者対策をテーマとして柏駅前で実施し、帰宅困難者役として市民161名や中学生54名の計

215人が参加しました。帰宅困難者対策訓練には民間事業者も参加しており、発災から、避難所の設置、受付、受け入れから閉鎖までを、柏駅周辺の関係団体とともに実施しました。訓練実施したことにより課題も見えてきましたので、現在その結果をとりまとめ、今後向け訓練の内容をプラスアップしてまいります。柏中学校の全校生徒約500名が参加した訓練では、防災ブース、ワークショップなど、楽しみながら防災を学べる防災教育の一環として実施しました。防災の地域の担い手養成は防災教育が有効的だと感じましたので今後、検討して参ります。

2、議題

[各部門から報告]

総務部 先ほども沼南近隣センター所長からご案内がありましたが、11月末から12月第一日曜日にかけてひまわりプラザまつりを予定、当会も出店します。配布資料の中のおりこみチラシには、まつり全体と当会出店案内が記載されています。風北ジョイナスによる防災クイズの出題は今年で5回目となり、こちらの建物2階会議室Eで行います。平日は沼南庁舎1階ロビーも開放して実施します。解答は○×形式で、10問に解答いただき、お米の高騰が続く中、クイズの成績優秀者から抽選で10名に米2キロを差し上げます。最終日(12/7)の午前中には、学校側の強い推奨もあって、昨年度好評だった餅つきの実演を行います。限定100食で有料(200円で販売)です。あわせて焼きそばも鉄板調理して販売します。まつりの最終日は午後4時終了で、フィナーレで「ふるさと」を大合唱して終了の予定です。

環境部 毎年恒例の視察研修(配付資料の広報しようなんP2参照)につき、来年1月21日(水)に「手賀沼の水を学ぶ」と題し、北千葉導水路ビジター・センターを訪問してどのように水が浄化されているのか見学します。また同センター内で水防災の観点から国交省の方に講習をしていただきます。もう一ヶ所は手賀沼終末処理場です。冬の時期は臭いがきつないので見学に最適だと思います。参加費は、バスチャーター代旅行保険加入、当日の市昼食代で一人2,000円をちょうだいします。

広報部 ふる協のホームページ内の町会・自治会・区情報の共有のページについて概要をご案内します。各団体の情報共有が無償で行えます。家庭が共働きだと回覧板をまわすのが大変だといった問題を耳にします。町会の活動や回覧板での案内内容などをいつでも自分の都合の時間で閲覧し情報共有ができます。ふる協ホームページ(最初の画面)の左にある上から3つ目のタブが情報共有サイトへの入り口です。最近、塚崎パークビラ自治会と五條谷区も参加し、計7団体が利用されています。(塚崎区を例に紹介)。掲載記事は永久保存扱いです。手賀の杜自治会は独自でホームページを所有しており、リンクを貼っています。他の町会の内容も閲覧ができますので、他の地域団体がどういった活動や情報を住民に発信しているかも知ることができます。最も先端的な内容として塚崎3丁目自治会の情報も紹介(当会広報部でその出来栄えに感心)しています。

今後5～10年先には、一層電子化が進展することで、迅速、効率的な情報共有としてその一歩になると考えています。当ホームページの大きなメンテナンスは当会で行います。使用料金は無料ですが、参加希望の各団体で代表者を決めていただき、ホームページへの情報掲載の手順などは、当会でその方に丁寧にご説明します。

防犯防災部 冒頭、関係者から12日市総合防災訓練についてその実施結果の案内がありました。本日午前中は手賀の杜自治会と箕輪区が沼南高校で防災訓練を実施、今後は明日(16日)に風早北二小と大津ヶ丘二小、24日には二松学舎大柏キャンパスで住民参加避難訓練が予定されており、それで今年度の防災訓練は大方終了します。その後実施結果を基に課題を整理します。今月22日の防犯講習会につき、毎年の年末年始には総じて犯罪が増加傾向にあります。窃盗、侵入、空き巣、屋内の物色などです。ここ4～5年連続で11月下旬に防犯講習会を行っています。柏市で発生した犯罪の統計分析、身近な詐欺まがい事件などにつき市の消費生活センター職員からのお話があります。すでに何人か一般市民の受講申込がありますが、全て女性です。犯罪に対する危機意識を抱く高齢女性が多いようです。こちらの部屋を会場に予定しますが、およそ60～70名の収容能力がありますので、現状で30名ほどの受講予定で、まだお席に余裕がありますので、事前連絡がなくても、受講は可能ですので、より多くお住民の皆さんのご出席をお願いします。

地区社協部 今年度新規事業で芋ほりイベントを実施し、広報しようと卷頭で結果をご案内しました。今年6月～10月まで、芋の苗植え、雑草除去、つる返しなどを行い、去る10月5日に芋ほり体験をしました。また芋のつるを使って今月22日にクリスマスリース作りを予定します。昨年4月、大津ヶ丘と塚崎社協が合併し風早北部地区社協となりましたが、地区社協は一本化せず活動を続けています。11月1日の大津ヶ丘ふるさと祭りに出展しました。また明日(11月16日)、大津ヶ丘第一小でボッチャ、卓球を行います。バスの旅は、すでに締め切っていますが、バス2台、参加者90名で館山方面に向かいます。11月23日の大津川を歩こう会は、大津ヶ丘第一小に集合し、増尾の観音寺まで歩きます。戻ってきてから豚汁が今年もふるまわれます。助けあい事業、あいあいの会、お互いさまの会ではゴミ出し、買い物、草取り、急場の支援などをしています。高齢化が進み、草取りをするのが困難などで申込が急増しています。12月7日のひまわりプラザまつり最終日に餅つきをして、焼きそばとともに100食限定で販売します。より多くの住民の皆さんのご来場をお待ちします。

自由討議

① < K-Net の課題 >

柏市防災福祉K-Netの概要として、令和5年に市福祉政策課作成の15分動画を上映。ひとりで避難が困難な人への支援、安否確認や避難支援も共助の制度で行います。東日本大震災の際、生き埋めとなった35%のうち60%は、近隣住民の手で救助されて命が

助かりました。住民相互の助け合いが根幹にあります。

ステップ1：災害時に支援を必要とする人は柏市へ届け出

要支援者は柏市に登録し、居住する地域に情報の提供をすることに同意する。

名簿の確認を行う。しかし、支援体制については、だれがだれを支援するかなど正解はありません。

要支援者は介護保険要介護者、障害者などの対象者を市町村ごとに定めています。柏市の場合、対象者を10段階に分けています。見た目では分からない人もおり、対象者が自宅にいることが前提となります。

平成20年度にK-Net制度を全市に展開。東日本大震災では、登録者のうち92%が町会等の協力で安否確認がされました。

その後災害対策基本法の一部改正、名簿の作成。

平成28年度 要件の新規該当者に意思確認の文書を発送。

同意書を市に提出。町会等の民政委員に情報を提供します。

希望者には窓口（福祉政策課、沼南近隣センターなど）で救急医療情報キットを提供。

「災害時救急医療情報キット」 K-Netに登録した人に提供。医療情報、緊急連絡先などを「救急医療情報登録票」へ記載してキットに同封する。自宅の冷蔵庫にキットを入れて保管し、マグネットシールを所定の場所に貼る。日本赤十字社千葉県支部柏地区の協力で、市役所福祉政策もしくは赤十字事務局で取得（290円）できます。

ステップ2：名簿・地図の提供

町会等へ「名簿受領に関する同意書」と引き換えに提供する。

7～8月頃、名簿地図の更新がされます。画面で同意書を確認する

名簿の情報は要支援者に関することに限定し、防災訓練で安否確認に活用できる。個人情報なので町会、自治、区の長が交代した場合、後任に確実に引継ぎを行う。

ステップ3：支援体制の構築

町会等の広さ、戸建て、高層住宅、居住人数などの違いにより正解はない。取り組みやすい体制を構築。名簿で要支援者を把握し、体制を作り、実際の災害に備え事前に支援者と要支援者の顔合わせをしておく。

支援体制のアンケートでは、支援者は役員が6割、近隣の個人が3割、班などのグループが1割だった。支援する際はまず安全を確保してから行う。支援時に何かが起きた場合必ずしもその責任は問われない。二次災害のおそれのある場合には市に連絡する。

＜震度5強以上の地震発生時＞

安否確認情報は地区災害対策本部に連絡する。地区災害対策本部は近隣センターなど20カ所。そちらが改修工事の場合は報告先に変更がある。

＜災害時報告フロー＞

町会長等が安否確認情報、道路建物の被害状況などをとりまとめ市の災害対策本部へ連絡。これによりK-Netによる被災現場の公的支援につなげます。

会場からの発言：

古山) この地区では暫定沼南近隣センター稻村所長が地区災害対策本部長となります。手賀の杜は本日防災訓練で会員住民約 950 世帯が対象で、安否確認を実施。要支援者について、会長が名簿を持っており自治会長が該当宅を訪問して沼南高校への避難が可能か聞きました。避難時のサポートが必要かに対して、今日は参加しないとのことで、K-Net の実践はありませんでした。手賀の杜では役員が毎年変わるので、毎年これを実施します。15～6 世帯が K-Net 登録者。中には非会員もいるため、大事なことは確実に、毎年、全戸対象で安否確認が必要です。

<Q&A>

鈴木) 各区、自治会から、意見はありますか。今日福祉政策課の方は見えていないので、猪野リーダーに内容を伝えてほしいと思います。

会長) 塚崎区では今年度対象者が 30 名。4 年前は 38 名で故人となつた方もいる。会員が 60%、3 割以上は未会員です。防災訓練は会員のみ対象であり、本番の時情報が漏れてしまう可能性があります。

安否確認訓練で、無事ならタオルを出すことになっていますが、未会員はこのことを知らないので出さない。そこで班長が調べに行きます。未会員の所に訪問しない場合もあります。会員の情報のみが地区対策本部へ連絡されます。

未会員の人に対して支援体制は協力的でない。K-Net や自治会がサポートするということを未会員は知らない。防災訓練で今年初めて、班ごとに地図を改定しました。タオル無の場合、在宅か否か調べて、風早中の体育館に張り出したのでどこが漏れていたのか分かった。来年度は、K-Net 登録者も貼り付けて、実施しようと思う。

班ごとの表と地図を作成し安否確認に役立てる。

小野) 大津ヶ丘一丁目町会で随分前に町会長を務めた。東日本大震災時、日中は仕事で動けなかった。K-Net の登録者については柏市が安否確認をしてくれて助かった。震災時に公衆電話など通信は途絶えるので、確認は直接行って対面しないと確認ができない。K-Net 登録者の数が 6,150 人で、450 人減っている。柏市の人口比からすると該当の要支援者はもっといるのではないか。独居者、高齢者も増えており、毎年、一人一人登録者、地図、名簿作りと町会の担当者は大変です。K-Net 登録者の情報をもらっているが、実人数を選挙人名簿から把握しました。空き地が増えている。また新入居者で地図が変わる。

救急医療情報キットはかなり活用されているのでもっとこちらを進めたらどうか。

塚崎 2 丁目 高橋) K-Net はフォローしていないでよく分からない。193 世帯、432 名で自力避難ができるか全員調査したところ、できない人が 9 名いた。K-Net 登録者は 4 名。さてどうするか。まだ体制ができていない。10 月 5 日の防災訓練では参加者は全体の 3 割。防災訓練意識は薄い。避難訓練の成果をとりまとめ中。有事は明日かもしれない。まず家族の安否確認が優先される。今の状況では全体の安否確認後、K-Net 登録者

は市にまかせることになる。

リバティーヒル柏（小倉）6世帯、戸建て3世帯は非会員、空き地に4～5棟ありここは区域外となる。管理オーナーはいらないといっている。非会員3名、K-Net登録3世帯、さらにK-Netについては平成29年以降何もしていない。

8月に調査したところ、9世帯は支援が必要で声をかけてほしい、安否確認してほしいとのこと。K-Netは実情と乖離がある。

塚崎区から組織が自治会として独立した経緯がある。全員に対して声をかけるのが原則。訓練の時タオルを出して野球や、ソフトボールに出かけてしまう人もいる。

全住民に集会所に集まってもらい、名簿にマークし、声掛けをする。一人も取りこぼさない、非会員（戸建て）に対しても防災訓練を呼びかけ、90%以上の参加をめざしている。役員は輪番制。震度5強発災時、防災アナウンスがあり、それを合図に安否確認をする。要支援者について、どういう支援が必要かというと、避難所までは一人では歩いて行けない人がいた。そのため小型のリヤカー2台の購入を考えており、プラス10の補助金での購入のため、現在申請中です。とにかく動ける人が動こうと考えている。

落合）五條谷区で去年名簿入手はしなかった。K-Net登録は数名。三役、民政委員、区長の対応でどこまでできるか、消防団との関係もあり負担が多く支援者のなり手がない。防災訓練に力を入れていない。住居が立て込んでいる所と、そうでないところがある。班長、消防団と安否確認をすることになる。マニュアル化が必要、K-Netは一つのツールであり、全体の安否訓練が必要かなと思う。

広瀬）箕輪区はK-Netの情報は入手していない。介護保険要介護3以上の該当者はもつていると思う。K-Netを希望する人がいる一方、その存在を知らない人もいる。旧箕輪地区では、新しい家がどんどん建っている中、小野塚地区では高齢化が進む。平成25年に災害対策基本法で名簿作成が義務化された。令和3年の名簿作りは市町村の努力義務となっている。個別支援計画ができればより実効性のあるものとなる。介護保険要介護3以上の認定の場合、ケアマネージャーを一人つけることによりかなりの費用が必要になる。その予算があるのか。名簿作りよりは実際に（対象者の）顔を見ながらやっていたほうがよいのでは。

小林）大木戸町会はK-Netの存在を知らない。制度は作ったとして、さてどこがどんな支援ができるか。安否確認の具体的な線引き、家族の問題もあり、自力で何ができるか分からぬ。善意に頼っているところがある。未会員もあり、実態が分かっていないので一度整理した方がいい。K-Netに登録していても、体制として活動していないので何もできない。

会長から補足）大井区は区長のみに情報が提供され、他に共有されていない可能性があるかもしれない。塚崎区では、風早中で、発災のとき、タオル出しの確認を当日の人員で行う。

市民活動支援課への質問）こちらはK-Net登録の他に、安否確認情報を地区対策本部に

連絡します。自治会にはK-Net登録者以外の人もいます。自治会に対して柏市は何をしてくれるのでしょうか。

市民活動支援課)同様の意見は他の団体からもありました。名簿をもらっていないとか、個人情報をもらっても怖くてできないとか。協力できるところはみなさんにお願いしますということになります。避難訓練で要支援者を助けるとき、歩けない場合を想定してリバティーヒル柏のようにリヤカー、また他では車いすを考えているところもあります。発災の時、支援者が、怪我をした場合どうするのか、については保険制度があります。福祉政策課または市民生活課でもよいのでK-Netについての要望をお聞かせください。

② <災害時の帰宅困難者増加に伴う担い手確保の問題>

古山) 帰宅困難者については、私事ですが、東日本大震災の際、自宅に戻れたのは2日後でした。柏市の帰宅困難者の防災訓練は柏市に在住で、市職員の対応が中心だった。訓練は盛況だった。在宅者に何ができるかについて、「風北ジョイナス」結成の背景にはその問題がありました。ジョイナスマンバーにご発言をお願いします。

石戸) 風北ジョイナス座長代理(大井区舟戸町会住民)

災害発生に昼夜の区別がない。町会の役員は男性が多く、昼間は不在。地元に残っている人で災害に対応しよう、発災時、女性の目線が必要ということで、ふる協の後押しで風北ジョイナスが誕生しました。

毎年およそ3ヶ月に1回、防災活動を行っています。現在の会員は15名。何が必要か実戦を想定して行います。公園でのデイキャンプ。夜在宅で被災した。家の中で泊まれない。車中泊。そこで何が起きるかを考え、食事を作るなど。実戦的に必要なものを表にまとめて、家に保存し大きな紙に書いて貼りだす、子供に防災用のサイコロゲームを考案して勉強してもらい、また地域の人にも分かってもらえるようにしています。

防災訓練に参加する。在宅避難の場合、食べたあとはトイレへとなるが、被災で使用できない。その時身の回りの何をどう使ってどうするか。今年、トイレについて何ヶ所かで講話しました。知り合いの人に風北ジョイナスの活動をお知らせください。

古山) 地域住民の防災について、女性の目線をキーに 子どもや孫にも伝わればと思う。担い手の確保の面で、今期の防災訓練には数は多くないが中学生や高校生の訓練スタッフとして組み込むことも、市域団体には要請しました。

防災安全課) 塚崎区主催の風早中学校での防災訓練で、災害時のトイレに関する防災講習を傍聴しました。パワーントでの説明にて防災専門家でない一般住民の方が、トイレの話を1時間できるのはすごいなと感心しました。市の今回の訓練も中学生の参加がありましたが、風早中学校での防災訓練でも中学生と一緒にマンホールトイレを組み立てました。こうした取り組みの中で次世代の防災の担い手が生まれてくると思いますし、防災の担い手には幅広い年齢層が必要だと思います。今年度、柏市は防災士を目指す市民に補助金制度(一般住民は半額の約3万円、学生は全額補助)を新設しました。これにより防災の担い手がもっと増やせることを期待しています。

石戸) 数年前に防災推進委員があつたが、今でもあるのか?

防災安全課) リーダー講習会は実施しています。地域防災計画の見直し、職員一人ひとりの行動計画も必要です。市全体でワンチームとなり、防災士、風北ジョイナス、中学生、学生も防災教育で育つ。最後は人を育てる、人づくりが大事、危機管理部、上層部もその点意識が統一しています。

牧野) 避難所の担当者が7月頃決まる。活動はそれ以後となつていて、4月から~7月の間空白とならないか。担当者を早く決めてほしい、防災安全課が推進しているのですか。

防災安全課) 4月~6月は空白ではなく前任者が対応することになっています。

牧野) 担当者の避難所での役割は、防災訓練への関わり、発災の時の役割は?

防災安全課) 避難所の開設及び初動運営が役割となります。避難所の運営は避難者自身で行っていくことになりますので、その支援も行います。担当者3名体制で実施が困難な場合、近隣センターにて代替者を選定し、追加支援のすることとなっております。

古山) 今、防災安全課から絶賛いただいた「災害時のトイレの話(防災講習会)」ですが、明日(16日)午前中に大津ヶ丘第二小で実施します(今年度予定されている最後の講習会)。

小林) 本日の理事会での「帰宅困難者」の定義は?

古山) 帰宅困難者は柏市以外に勤務する住民のことを指します。

<自由討議はこれで終了>

司会) ふる協へ各地域からの要望、困りごとなどあればこの場でどうぞ。

会員の脱退、賃貸、新居者が多いなど。回覧版の在り方は柏市でどうとらえていますか。

市民活動支援課) 市長から電子化推進の命はありますが、当面はハイブリッドにて紙面と電子化の併用。

会場から) 回覧版を廻すことは、平時の安否確認活動にもなる。一方で、距離的に遠いで回覧板は非効率のため、電子化推進の団体もあります。

司会) 今年度の最後の理事会となりました。

来年度、年3回開催を予定。名称は区長会、自治町会など何がいいのか検討したいと思います。ふる協としては広報「しょうなん」、視察旅行、お祭り、防災活動など3月迄活動が続きます。情報はホームページで取得してください。ふる協でよりよいまちづくりへの協力を引き続きお願いします。

以上で理事会終了